

◆経腸栄養分野の接続コネクタ問題◆

(R3. 4. 26)

既存規格コネクタの存続について

議員連盟に請願書を、三原厚労副大臣に要望書を提出

「ミキサー食注入で健康をのぞむ会（代表：下釜櫻子）」の呼びかけにより、既存規格接続コネクタの存続を求める署名活動が行われ、当会でも HP や「両親の集い」で協力を呼びかけてまいりました

皆様のご協力により全国から2万2千筆を超える署名が集まり、4月23日（金）に経腸栄養コネクタ議員連盟（会長：根本匠衆議院議員、座長：木原誠二衆議院議員）に2万2千筆の署名とともに請願書を提出いたしました（議員連盟の先生方がこの請願書を衆議院議長に届けて下さいます）。

議員連盟開催後、議員の先生方と一緒に三原じゅん子厚生労働副大臣を訪れ、要望書を提出いたしました。下釜代表は実際の器具を用いて説明され、「私たちは決して新規格に反対しているわけではなく、食事注入を続けいのちを守るために既存規格を残してほしいだけです」と訴え、三原副大臣からは「この問題については、昨年要望書（当会をはじめ三団体連名）をいただいたことを受け、厚労省でも研究班を立ち上げたところ。いのちの問題なので皆さんのお気持ちはよくわかる。今後多方面の意見を伺いながらしっかり検討していきたい」と、私たちの思いを真摯に受け止めていただきました。（「署名簿の国会提出」と「厚生労働大臣宛要望書提出」のご報告）。

(R3. 2. 16)

経腸栄養分野の小口径コネクタ 製品に係る旧規格製品の出荷期間の延長について

当会が日本重症心身障害学会らと要望していた旧規格製品の存続について、出荷期間が2022年11月末まで延長される通知が出されましたので情報提供いたします。

(R2. 12. 21)

「経腸栄養分野での既存広口タイプ誤接続防止コネクタの存続に関する要望書」を提出

令和2年12月21日、日本重症心身障害学会（永江 Dr.）、日本重症心身障害福祉協会（関谷事務局長）および当会の三団体で、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課を訪れ、厚生労働大臣および同省医薬・生活衛生局長宛に上記要望書を連名で提出しました。

厚労省では、医薬安全対策課安全使用推進室の高橋室長をはじめ関係する部署の方々6名がご同席くださり、1時間半にわたり熱心にお話を聴いてくださり、医療事故防止及び製品の安定供給の確保の課題を整理しつつ、学会等の意見も聞きながら、重症心身障害者の介護者の負担軽減の方策（例：変換コネクタの継続）が可能かどうか検討するということを、今後の対応の方向性としてお示しいただきました。

（R2. 11. 24）

経腸栄養分野の小口径コネクタ製品の取扱いについて要望書（当会の要望書）

当会では昨年12月24日付で上記要望書を提出いたしました（情報提供62）。このたび、既存規格接続コネクタが引き続き使用できるよう「ミキサー食注入で健康をのぞむ会」（代表：下釜櫻子）が立ち上がり皆さんの賛同を求めています。また、日本重症心身障害学会においても実際に検証を行い、HP上で提言をされています。経腸栄養（経管栄養・ペースト食等を含む）を利用されている方にとっては日々の生活に関わることで、是非お読みください。